

北イタリア：ドロミテ山塊からチンクエ・テッレ海岸へ ～ルネッサンスが薫る街々を巡る

報 告：鈴木康之（さいたま市）

写真提供：渡辺信也（富士見市）

日 程：20013年5月31日～6月12日（13日間）

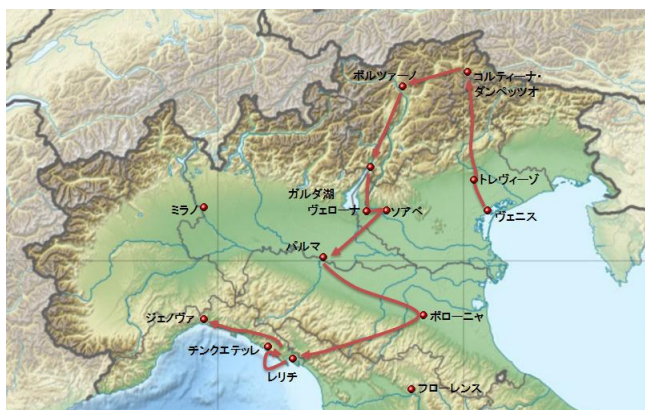
参加者：30名

リーダー：鈴木康之

費 用：現地費用 2,500 ユーロ、航空費約 16 万円

コース：

ベネツィアで2日間の長距離フライトの疲れをとった後コルティナ・ダンペッツォに3日間滞在しドロミテを散策。その後ローマ時代から続くワインとチーズの街道に沿って郷土料理を楽しみながら、西リヴィエラ海岸の外れにあるチンクエ・テッレの絶壁にへばり付く村々に立ち寄りジュノバから帰国。



奇跡の晴天 ドロミテの景観を堪能できたのは晴れ女の功績？

欧州は5月になっても雨と低温に襲われており、ドロミテは季節外れの雪、ベルリンは5月でも暖房が必要とか、100年前なら大飢饉だという心配な情報ばかりであった。

今回の旅に向けて探したガイドはベネツィア人と結婚した元日本女性で、山岳ガイドをしながら同時にイタリアのワインと食文化講座を時に開くイタリア・ソムリエ会員でもあり、ドロミテ山塊とワインとチーズ街道を巡る旅に最適の人材であった。事前に彼女から異常低温中の旅の準備などの情報を貰い、参加者に伝え、皆それなりの対策をしていた。しかし晴れ女を自称する参加者が4人もいたためか、日本発の前日から北イタリアの天候は急激に回復始め以降帰国時まで連日奇跡的晴天が続いたのである。



雪のドロミテ山塊

日程

	月日	曜	地名	主なる内容	宿泊地
1	5/31	金	成田～ヴェネツィア	成田発 09:45 (フランクフルト経由) ヴェネツィア着 17:30	ヴェネツィア
2	6/01	土	ヴェネツィア市内	終日市内観光 船大工工場 ムラノ島 プラノ島訪問	〃
3	6/02	日	コルティナ・ダンペッツォ	中世からの街トレヴィーゾ、ヴィット・ヴェネト(パウロ1世ゆかり)を観光しながらドロミテの女王と云われるダンペッツォへ	コルティナ・ダンペッツォ
4	6/03	月	同上	ドロミテ山塊ドライブ、トレ・メーチで軽ハイクと山村訪問	〃
5	6/04	火	同上	ゴンドラでピッコラ・ラガツォイ・壮大なパノラマや溪谷など観光	〃
6	6/05	水	ドロミテ街道/湖	ドロミテ街道沿に名所ポルドイ峠、ケーブルでセッラ山、紀元前より多くの芸術家をとりにしたガルダ湖湖畔の宿へ	リーヴァ・デル・ガルダ
7	6/06	木	パルマ	トレボレ(ゲートゆかり)、サロー(ムソリーニゆかり)、ヴェローナ(ロミオとジュリエット) ソアベのワイナリー見学	ボローニャ
8	6/07	金	レリチ	ボローニャ大学、旧市街、斜塔、パルマではパルミジャーノチーズ、パロマハム工場見学、中世の城下町レリチへ	レリチ
9	6/08	土	チンクエ・テッレ	ボートとバスで海陸から世界遺産の村々訪問、愛の小路散策	〃
10	6/09	日	ジェノヴァ	作曲家プッチーニゆかりの街、イタリア大理石産地カッラーラなど風光明媚な東リヴィエラ海岸沿いの街から中心地ジェノヴァ	ジェノヴァ
11	6/10	月	同上	市内観光 世界遺産のストラデー・ヌオヴェなど観光	〃
12	6/11	火	同上	空港へ 12:40 発 ミュンヘン経由 16:00	機中
13	6/12	水	ミュンヘン経由	成田着 10:25	帰国

ドロミテがもっとも美しく映えるのは雪が残る4月だそうで、異常気象のおかげで6月にその美しい景観にめぐり合えた。あまりにも良い天気になったので予定コースをご破算にし、3日間バスをレンタカーのように自由に走らせ、2,000mを越える高い峠や幾つかの低い峠を越え、またケーブルカーで2,700mの高度からとドロミテ山塊群を展望してきた。



ラガズオイのケーブルカー

ドロミテ層からなる赤い山は夕日でその赤がさえることや高度、角度、太陽の方向によりそれぞれの山々の印象が変わることを計算したドロミテを知り尽くしガイドならでのコース取りであった。



ミズリナ湖とバックにクリスタロ山塊



村の花市

特に景観の良い場所では散策時間も充分とり、立ち寄った一つの小さな村では折から花市が開かれており、農産物やお菓子類の屋台もあったので村人達と話をしたり、試食したり一緒に写真を撮ったりして楽しい時間を過ごすこともできた。

人ごみのベネツィア：中心市街から離れた田園のピラは結果良し

ベネツィア市内のホテルは狭い上に驚くほど高いことで知られている。さらにビエンナーレが開催されるため一層高くなっており費用に見合う価値に疑問を感じた。ホテルの多い空港近くやサンタルチア駅近辺も避け内陸のシーレ川上流にある静かなピラに決めた。ベネツィアにはホテルから船を仕立て入ることとした。普通は駅や空港から運河を利用して旧市内に入るのだが、我々は運河を通らずにブラノ島、ムラノ島と立ち寄り、海から直接ベネツィアへ入る面白いコースとなった。



シーレ川の船下り

150名は乗れる船を30名で借り切りシーレ川からアドリア海へ入るのんびりした船旅となったのだが、ベネツィア市民の船のピクニックコースだそうで草花や葦が茂り、鳥がさえずる干潟の水路は静かで美しい。



船からブラノ島へ上陸

4世紀頃匈奴の一族？フン族のヨーロッパ侵入の略奪から逃れるためアドリア海の干潟（ラグーナ）に人工島を築いたのがベネツィア島である。干潟にドロミテの森の木を無数に打ち込みその上に石を積み重ねたので、ベネツィアをひっくり返すとドロミテの森になるよという。侵入者から身を守るためなので、沖の干潟にベネツィアを作った結果、陸に近い干潟は昔のままの美しい景観を保っている。



人ごみの市内

市内は観光客の大群が群れており、波止場は船で溢れ島に上陸するのも順番待ち。航空機や列車で来る観光客に加え、最近では大型のクルーズ船が常時1～2隻係留しておりごみ処理や公害が問題になっている。何千人も宿泊する大型船からの排水だけでも海の自然浄化能力を超えている。大型クルーズ反対運動もあるようだが観光収入のメリットもあり解決は難しいし地盤沈下問題の対策もさらに難しいようだ。



船で込み合うサン・マルコ広場

斜塔の多い国

有名なピサの斜塔以外にもこの国は斜塔が多い。

ベネツィアの隣の島に2本の塔が傾いているのが見て取れたが、ポローニアにも有名な斜塔がある。ガリレオ、ダンテ、コペルニクスが学んだ世界最古のポローニア大学のある街が、一方では斜塔も有名というのも不思議な組み合わせである。

ガイドによれば、ベネツィアもポローニアも多くの斜塔があったが、危険なので取り壊したそうだ。

ベネツィアは埋め立て島であり斜塔になりやすいことがわかるが、ポローニアの塔が斜塔になってしまう理由は安易に作りすぎたかららしい。古くから交通の要衝として繁栄し貴族達は交易で多大な利益を上げる一方競争も激しかった。商売敵の近隣の貴族の家を見張るためと財力を見せ付けるため、争って高い塔を作ったそうだ。塔は敵の動きを探ると同時に攻められた時の避難場所でもあったという。



斜塔ですが写真では解りにくい
(鋼鉄のワイヤで補強)

ロメオとジュリエットは実話がヒント?

イタリアを訪れたことのないシェークスピアの戯曲ゆえ作り話と思っていたが、実際にジュリエットが立ったと称するバルコニーに立ってみると現実の事件だったと感じる。ここヴェローナは隣の街ローニアと同じように、隣同士の貴族達はお互い商売敵であり常に抜け駆けを図り仲は悪かったらしい。

しかし親同士の仲が悪くても親の利害を差し迫って感じない若者同士は身近な相手として恋人の関係になってもおかしくないし、多くの例があったと想像できる。



ジュリエットの家のベランダで
写真を撮るWSCの仲間

チーズ工房とチーズ工場

ドロミテ山中の小さな農家チーズ工房で生産工程を見学後試食したが、フレッシュチーズで長持ちしないにかかわらず美味しいのでかなりの人が購入した。帰国後発酵し過ぎていなかったことを祈るだけだ。

パルマ市では有名な高級チーズ・パルミジャーノ・レッジャーノの本格的工場を見学した。このチーズはハードタイプで長持ちするし、日本の6分の1の価格で購入できるのでどうしても寄りたかった。

イタリア家庭では普段は大量生産の良く似たグラナ・パタード・チーズを使い、特別の日だけパルミジャーノを使うと聞いている。

巨大な熟成倉庫内のチーズは担保価値が大きいことで知られており、最初見学の申し出は「衛生上団体の見学はだめ」と断われたが、せめて有名な倉庫だけでもと再三お願いしてようやく了解してもら

えた。

結果として、全工程の見学と説明があり試食も楽しめた。



パルミジャーノ・レッジャーノチーズ
工場倉庫の一部

パルマハム工場訪問

美食の街パルマは高級チーズ、ワインと並んでパルマハムも名高い。美食街道の旅なのでハム工場も逃せないと高級生ハムのプロシュート・クルードを生産する工場を訪問した。



パルマハムのプロシュート・クルードの熟成工程

1日30頭処理すると聞いたので、1年から2年あるいはそれ以上熟成させることから工場内にぶら下がっているのは万を数えるだろう。1年熟成の太もも1本約12kgあるそうで、1本幾らで買えるか聞いてみた。市内より安く130ユーロ程度とのこと。ここの生ハムは日本のデパートで100g当り1,500円するので、できることなら1本担いで帰りたいと冗談を言うと、「そんなに高いのか!」と驚きながらも香港の青年が先日1本真空パックにして担いで帰ったそうだが通関できたかは知らないと笑う。米国では肉エキスのスープを使ったインスタントラーメンさえ通関時見つければ取り上げられるとのことだが香港でも通関できないはずだ。

なお、日本は輸入税が100%以上あり、温度管理された特殊運搬や流通過程の厳しさなどを考えれば10倍となっても仕方がないのかも知れない。

チーズ工場でもハム工場でも試食時にはそれに合うワインが供される。ワイナリーもワインに合うチーズや生ハムが供された。ローマ時代からワインに

合うチーズが開発され、そしてチーズに合うワインを開発してきたイタリアではハムも同じなのであろう。ベネツィアに住むガイドは、イタリア人は味と材料に保守的で30km離れると郷土料理が違ってくるという。ワインが土地の成分で変わるのだからそれに合わせるチーズもハムも違うのであろうか。

ワイナリー訪問：イタリアの白ワインを代表するソアベにて

ローマ時代より白ワインの生産地であるが、一昔前米国が高級ワインとして大量に輸入したので、その名が世界にとどろいた。しかし米国向け大量輸出により粗製乱造の評も出てしまい、名声を取り戻すべく一部醸造家達が努力したので、今は再評価されているとのこと。その中で、日本皇室のパーティーにも使われているピエロパン家のワイナリーを訪問した。

醸造学者の当主の説明は奥深くしかも通訳がソムリエとあれば本格的な説明が可能になる。

日本語を知らない当主は、ガイドが身振り手振りでも理解できる専門用語も使って通訳しているので、ガイドに「君は何者だ」と質問した。ガイドがソムリエと答えた事で深くうなずき、パーフェクトとますます熱を上げて説明する。工場の屋上から畑の説明もあり、こちらの畑の葡萄酒とあちらの畑の葡萄酒を混ぜると良いワインとなるそうだがそれらの違いを区別できるソムリエとはすごいものだ。



ピエロパン家ワイナリー工場から見た葡萄畑

食べることばかりではありませんが

アイスマンのエッツイ博物館、世界最古の大学の



アイスマン



チンクエ・テッレの村々

解剖教室、プッチーニの家、絶壁にへばりついてい

るチンクエ・テッレの村々や海洋貿易で栄えたジュノバの港町の文化的遺産など報告は省略しました。

想定外と想定内のこと

外国旅行は想定外の事が起こるのもある程度は覚悟しなければならないが良くも悪くも後で印象に残る思い出にもなる。今回の最大の事件はあるホテルのオーバーブッキング事件である。

ドロミテを出て歴史都市を巡る旅に向かうに当たって、保養地ガルダー湖湖畔にホテルを予約していたがそれは夕刻に到着し翌早朝出るワンストップとしての位置付けであった。

ドイツは北の州から順番に夏休みのバカンスが始まり6月初期には至るところ北ドイツ人で賑わうしこのホテルもドイツ人でいっぱいであった。あるドイツ人夫妻は太陽を求めてバカンスに来たのに雨が降り続き寒くてがっかりしていたが、待望の太陽が出たので滞在を延期するのだと、大喜びで話してくれた。この混乱状況で部屋が不足し、普段使っていない部屋まで使用したがそれでも、遅く着いた我々の中の数名は少し遠い別ホテルへ分宿せざるを得なかった。使っていなかった部屋は当然欠陥があり申し訳なくも迷惑をかけてしまった。どの部屋も同じ条件になる大型ホテルは大都市以外にはない。特にイタリアは大型ホテル建設に反対運動があって、小さなホテルがほとんどである。当然ホテルの部屋ごとの差が大きく不公平がどうしてもできてしまうが、これらを理解してくれる参加者に感謝せざるを得ないし、だから旅の企画をしてみようとする意欲がまた湧いてくる。

今回の旅行は連日晴天に恵まれたこと、旧市街や旧王宮の知る人ぞ知るような特徴のあるレストランやそれぞれ特徴ある地方郷土料理を手配してくれていたことは良い方の想定外であった。

連日昼食は1時より1.5時間くらい、夕食はたっぷり2時間以上かけるラテン民族式のフルコースなので、参加者は疲れたかもしれない。現地民生活の場であるスーパーやマーケットなどで時間をとり過ぎた感もあるが、帰りの荷物が倍近くなった人もいるので良かったのかもしれない。ルフトハンザはエコノミーでも23kgの荷物2つが認められるようになったのも嬉しい想定外。

成田に到着した時、ホテルのオーバーブッキングの問題はあったが、全体から見れば素晴らしい手配で感謝していると、参加者の声を現地に伝えた。現地手配会社はホテルと激しくやり合っていた最中で、参加者の声が伝えられた時、社員一同ほっとして、自分達の努力をWSCの会員が理解してくれていたと喜び合ったそうだ。